# 「鬼は外、福は内～学校に福を招く～」

今日２月３日は節分です。幼少の頃「鬼は外、福は内」と口にしながら、鬼に扮した父親に堂々と豆を投げつけた日のことを、今でも思い出します。

教室を周っていると、入り口に柊が飾ってある教室を見かけました。柊に焼いた鰯の頭を刺したものを「ひいらぎいわし（柊鰯）」と呼び、古くからの日本の風習として伝えられている節分の飾りです。「ひいらぎいわし」は、ただの飾りではなく、節分の鬼が嫌いな葉っぱである、尖ったトゲのある柊と、鬼が嫌がる臭いの鰯を組み合わせて飾ることで「鬼が家に入って来ないように」**という**魔除けの意味合いが含まれています。日本古来の風習であり、最近では、ほとんどしないような習わしではありますが、子供たちに日本の伝統文化を教えることで子供たちが知識を得（え）、また実物をもって日本の伝統文化に触れさせてくれたことを大変うれしく思いました。

豆をまくときに発する「鬼は外、福は内」という言葉には、災いや不安を払い、幸せや希望を招き入れたいという、昔からの人々の願いが込められています。

学校生活にも、いろいろな鬼がいるかもしれません。嫌なこと、苦手なこと、不安になる気持ち、諦めよう、誘惑に負けそうになる・・など。しかし、それらは無理に力で追い払うものではなく、一つ一つ向き合い、工夫し、時には支え合うことで克服できるのではないでしょうか。

その一方で、学校にはたくさんの「福」があります。子供たちの成長や笑顔、「できた！」「分かった！」と喜ぶ子供たちの姿。そして、それらを見て、感じて、「教師になって良かった」と改めて思う職員たち。そうした学校の「福」は、日々の教育活動を支えている教職員の努力と協力のおかげで、学校の「内（うち）」に招くことができるのだと思います。

今日は、今ある日常の尊さを改めて感じた節分の日になりました。